

むくのきだより 7月号



令和4年6月30日 港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

応援団に支えられて育つ子供たち

園長 中村 美奈子

統計がある昭和26年以降、最も早い梅雨明けとなった今年、赤羽幼稚園の梅の木が、例年よりたくさんの実をつけました。年少さくら組の子供たちが一生懸命集めた実を、年長ゆり組の子供たちが食べられそうなものとそうでないものに分けました。熟しすぎて食べられない梅は、子供たちの遊びの材料になりました。すり鉢で潰し、水を加えて色水遊び。甘い香りがピロティに広がりました。食べられる実は、ジャムにしました。ズッキーニ、キュウリ、ナス・・・と次々に子供たちが育てている夏野菜も収穫を迎えています。野菜が苦手な子供も赤羽幼稚園産の野菜は食べられるようです。7月はジャガイモを収穫し、カレーづくりに挑戦します。

6月8日に「赤羽こどもまつり」がにぎやかに開催されました。年少さくら組の子供たちは初めてのおまつり。「むしむしめがね」「キラキラボール」「ぴよんぴよんカエル」を並べ、「ぜんぶおもちゃやさん」を開店しました。年長ゆり組の子供たちは、「たのしいじえっとこーすたーらんど」と「てっぼうわくわくたのしいやさん」です。さくら組もゆり組も、それまでの遊び中から生まれたお店です。当日は、交代でお店屋さんとお客さんになりました。ひよこっこの未就園の子供たちや飯倉保育園の子供たちも招待したので、たくさんのお客さんと関わることができ、自分が楽しむだけでなく、相手が楽しんでくれたことを喜ぶ姿がありました。

「赤羽こどもまつり」では、保護者の皆様に事前の保育参加で親子製作や、「ヨーヨーおたからつり」「おさかなぱくぱく」のお店を出していただき、ありがとうございました。また、三田地区委員会の皆様には、「エアシューター」「コリントゲーム」「スーパーボールすくい」やバルーンの剣でおまつりを盛り上げていただき、感謝申し上げます。保護者の皆様や地域の皆様が、子供たちの応援団として日々見守り、時には感性を刺激する催しをしてくださることで、幼児期の心に残る思い出や成長の糧となると思います。やがて大人になったとき、この地域に親しみや愛着をもち、「自分のふるさと」として大切に思うようになってほしいと願っています。



三田地区委員会は、地域の子供は「地域で育てる」という考えのもと、港区と連携し、三田中学校の学区域の町会、町会内の施設、三田中学校・芝小学校・御田小学校・赤羽小学校・赤羽幼稚園の三田アカデミーとそれを支える委員で成り立っている、ポジティブボランティアの委員会です（港区青少年対策三田地区委員会広報誌より）。三田地区委員会の皆さんには、年長ゆり組の子供たちが、宮崎前園長を訪ねて芝浜小学校に行った際も付き添いにご協力いただき、ありがとうございました。